

日吉大社自然観察倶楽部通信

No.16 杜の観察会+お茶作り

H25年4月29日/5月4日



日吉大社芸術祭のイベントとして、4月29日に杜(もり)の観察会を行いました。爽やかな天気の中、日吉大社から八王子山の山頂まで17名で散策しました。

まずは、辻田先生の説明から。それによると、比叡山と言えば杉が多いという印象ですが、意外と檜(ヒノキ)の方が多いそうです。また、この一帯は照葉樹林帯で、境内から続く八王子山の高さは321m。とても登りやすい山です。(距離は1km未満)

上の写真は、**どんぐりクイズ**の様子です。橋を渡ったところで、3種類のどんぐりの木を探してもらいました。今の時期は、どんぐりの実が落ちていないので、主に樹皮や葉っぱの様子から推理してもらいました。難しかったですでしょうか？

- ・アラカシ → ; 葉が厚く、途中から鋸歯(ギザギザ)あり。周辺に多く見られる
- ・ウラジロガシ → ; 葉の裏が白く、点が多数ついている。
- ・ツブラジイ → ; 葉が細長い。シイの中でも小さい方。
- ・イチイガシ → ; 葉の裏とどんぐりの先に毛が生えている。(八王子山)

次は、動物の写真を細かく切ったカードを1枚ずつめくり、その**動物の名前を当てるカードゲーム**をしました。右の写真は答え合わせの様子です。一部分から動物を当てるのは結構難しかったです。このゲームでは、比叡山に住む動物がカードの題材になっています。それによると、ここにはサル・ネズミ・イノシシなどの動物+ヤママユ・テントウムシ・カマキリなどの虫が生息しています。



最後に、山王祭の余韻が残る八王子山へ登りました。高度が上がっていく中、日吉大社境内にはないツガやイチイガシを観察しました。モミの大木も大事にしたい木の一つです。山の手入れが行われた結果、山の上からの見晴らしも良かったです。今回はのんびりと杜の自然に触れる観察会でした。



5月4日には、イベント第2弾「日吉茶園でお茶摘み・お茶作り」を25名で行いました。

晴天の中、日本最古の茶園といわれる日吉茶園でお茶摘み開始です。**ザルを片手に、柔らかなお茶の新芽を摘んでいきます。**(左の写真)

摘み方は、一芯二葉(いっしんによう)です。先端の葉とその下の葉2枚、合計3枚を摘んでいきます。今年は参加者が去年の倍に増えたせいもあって、日吉茶園だけでは足りず、薬樹院さんと坂本の農家さんのお茶の木も摘ませていただきました。皆さん楽しくお喋りをしながら、作業が出来ました。穴太から参加された方の話によると、昔は、自分の家で飲むお茶は自分の家で作っていたそうです。効率を高めるためにお茶の葉を鎌で刈っていたとか。

お昼からは、日吉会館に場所を移してお茶を作っていきます。お昼休憩に、竹林院さんの駐車場で鶴喜蕎麦を頂いていると、陣中そば早食い大会が行われていました。盛り上がる会場の熱気をも糧にして、後半のお茶作りに挑みます。

本来は一週間かけてお茶を作りますが、今回は一日で作る簡易版。ホットプレートで**釜炒り茶**を作ります。工程は大まかに以下のとおりです。



- ① ホットプレートで炒る
- ② **手で揉む** (下の写真⇒お茶の香りが漂います。)
- ③ ①～②を5回繰り返す
- ④ 成形しながらホットプレートで仕上げの乾燥

①ホットプレートで炒る、②手で揉む作業を繰り返していると、たくさん摘んだはずのお茶の葉が(水分が抜けて)みるみるかさが減っていきます。それと同時に、お茶のいい匂いが漂ってきました。写真では伝えられませんが、筆者の大好きな工程です。④の仕上げの乾燥が終わるころには、お茶の葉の体積は1/6程になったのでしょうか？最後に皆さんで頂いた新茶はとてもおいしかったです。

普段飲んでいるお茶ですが、一からつくるとなると、結構大変です。今回、お茶の味だけでなく、お茶作りの文化も伝えられたならとても有意義な時間だったと思えます。



※日吉大社自然観察倶楽部のHPから読むことも出来ます。次の予定もチェック!

<http://hiyositaishasizenkansatu.jimdo.com>